

(60)

氏名(生年月日)	ヨシ 吉	トシ 利	アキ 彰	ヒロ 洋
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第1138号			
学位授与の日付	平成2年12月21日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	潰瘍性大腸炎難治症例の至適なる手術時期に関する研究 —外科治療症例と内科治療症例の臨床経過を対比して—			
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 浜野 恭一, 藤田 昌雄			

### 論文内容の要旨

#### 研究目的

内科治療に難化する難治性潰瘍性大腸炎の手術時期の決定には苦慮させられることが多く、従来の手術適応の指標は単に難治で再燃を繰り返すという漠然とした規定のみであった。本症に対して安全に自然肛門温存術式が施行されるに至った現在、外科の立場からみた手術時期決定のための客観的かつ具体的な指標を求めめることを目的とした。

#### 研究対象及び方法

1975年から1989年3月迄に教室で経験した潰瘍性大腸炎154例のうち手術36例(難治24例, 非難治12例), 内科治療69例(難治32例, 非難治37例)計105例を対象とし, ①経過観察期間(発症より手術または1989年3月までの期間: 月単位), ②入院回数, ③経過観察期間を入院回数で除した値(index I), ④プレドニゾン総投与量(mg), ⑤プレドニゾン総投与量を経過観察で除した値(index II), ⑥保存的治療中の回復困難な併発症の出現の頻度と時期, について各症例より求め対比検討した。有意差検定は Student's t-test, Chi-square test を用いた。

#### 結果

①経過観察期間は発症より60カ月以内に手術例, 60カ月以上に内科治療例が多い。②入院回数は難治症例の平均は3回以上で非難治症例の平均は3回以下である。故に発症より60カ月, 3回以上の入院を目安に内科治療難治症例は手術の時期を検討する。③index I が10以下の症例は全例手術に至り, 20より大の症例で

は87.8%に内科治療が続行された。④難治症例はプレドニゾン総投与量が5,000mgを越えるが手術例と内科治療例の有意差はない。⑤index II が100以下の症例の87.7%に内科治療が継続され, 300より大の症例では88.9%が内科治療に難渋し手術に至った。⑥保存的治療中の回復困難な併発症は手術例の30.6%, 内科治療例の7.2%に認め, index I が20以下の群の35.5%, プレドニゾン総投与量が10,000mgを越した群の33.3%, index II が200より大の群の50.0%に認めた。

#### 考察及び結論

難治性潰瘍性大腸炎に対する至適な手術時期は発症より5年の経過, 3回以上の入院で考慮され, 経過観察期間を入院回数で除した値 index I が10以下, プレドニゾン総投与量を経過観察期間で除した値 index II が300以上, 回復困難な併発症の出現した時が内科治療続行の限界であり, 患者の quality of life を総合的に考慮すれば回復困難な併発症の出現前が相対的手術適応の時期である。内科治療に難化する難治性潰瘍性大腸炎の手術時期の客観的かつ具体的な指標が確立されたと考える。

## 論文審査の要旨

難治性潰瘍性大腸炎の手術適応に関しては確たる見解がない。本研究は105例の潰瘍性大腸炎を retrospective に検討した結果、発症より5年経過、3回以上の入院、経過期間を入院回数で除した値10以下、プレドニゾン総投与量を経過期間で除した値300以上、回復困難な併発症の出現などをもって、手術時期の指標とすべきであるとしたもので临床上、学術上価値あるものと認める。

### 主論文公表誌

潰瘍性大腸炎難治症例の至適なる手術時期に関する  
研究—外科治療症例と内科治療症例の臨床経過を  
対比して—

日本大腸肛門病学会雑誌 第43巻 第6号  
1114-1123頁（平成2年9月発行）

### 副論文公表誌

- 1) 消化管スクリーニングとして内視鏡検査が有効であった食道粘膜癌の1例  
日気食会報 35 (3) : 269-273, 1984
- 2) 大腸内視鏡的ポリペクトミー後の肉芽性ポリ-

プの形成について

Gastroent Endosc 30 (5) : 942-949, 1988

- 3) 上行結腸に発生した絨毛腺腫内癌を含む大腸同時性多発癌の1例  
Endosc Forum digest dis 4 (2) : 339-343, 1988
- 4) 深部結腸に発生した悪性絨毛腫瘍の2例  
Gastroent Endosc 31(7) : 1873-1877, 1989
- 5) 大腸癌の家族内集積を認めた癌多発家系の1例  
大肛病会誌 43 (4) : 661-655, 1990